

平成29年度 大学入門ゼミ・学科基礎ゼミナール推薦図書

(現代社会学科・人間文化学科向け)

★★入門

書名	心理学・入門 — 心理学はこんなに面白い —		
著者	サトウタツヤ・渡邊芳之	刊行年	2011
出版社	有斐閣アルマInterest	価格	1995円
コメント	心理学は実に幅が広い。「心のケア」ばかりが心理学ではない。心理学を大学で本格的に学んでみようと考えている人は、ぜひ本書を読んで、その奥深さを感じ取っていただきたい。		

★★入門

書名	「あたりまえ」を疑う社会学—質的調査のセンス		
著者	好井裕明	刊行年	2006
出版社	光文社新書	価格	777円
コメント	世の中で「あたりまえ」のこととして流布している言説を鵜呑みにしていたのでは、学問の営みは始まらない。本書は社会学の立場から、「あたりまえ」を疑うことから始めていく研究——なかでも数量的ではないデータを扱う研究＝質的研究——のセンスについて、筆者独特の語り口で綴られている。		

★★入門

書名	マヤ文明—密林に栄えた石器文化—		
著者	青山和夫	刊行年	2012
出版社	岩波新書	価格	800円
コメント	ジャングルにそびえ立つ神殿ピラミッド、広場に林立する石碑、交易に用いられた黒曜石……。マヤ文明は中米の密林に花ひらき、16世紀まで繁栄した究極の石器文明だった。マヤの支配層は、コロンブス以前のアメリカ大陸で文字、暦、算術、天文学を最も発達させた。もはやマヤ文明を謎と神秘のベールに包んで論じる時代ではない。マヤ文字は王の事績を語り、考古学は実際に生きていた貴族や農民の暮らしを具体的に明らかにする。最新の研究成果に基づいて、マヤ文明の実像に迫る。		

★★入門

書名	ワークショップ 人間関係の心理学		
著者	藤本忠明・東正訓(編)	刊行年	2004
出版社	ナカニシヤ出版	価格	2160円
コメント	<p>人が他者に好意を持つするには、どのような要因が関与するのだろうか。また、より良い対人コミュニケーションを形成するためには、どのような点に留意すれば良いのであろうか。本書では、主として大学生の人間関係に焦点を絞り、効果的な対人関係のあり方について心理学的な視点から説明がなされている。質問紙などを活用した体験型の学び(ワークショップ)の工夫もされているので、自己理解を深めながら読み進めることができる。</p>		

★★基礎

書名	忘れられた日本人		
著者	宮本常一	刊行年	1984(原本 1960)
出版社	岩波文庫	価格	735円
コメント	<p>この本が書かれたのは、高度経済成長期まっただ中の日本。大量のものを効率よく生産し過剰に消費するサイクルのなかに人びとの暮らしが巻き込まれていった時代。あまりにも急激な環境の変化は、生活文化に新旧の断絶をもたらし、過去の暮らしは遅れたものとして急速に忘れ去られようとしていた。そんな激流の中で、「ただかんとんに忘れてよいのだろうか」という思いが本書によって刻まれた。わたしたちがこれから先どんな道を歩むのかを定めるためにも、忘れられた存在の声に耳を傾け、過去に学ぶ作業は必須となるだろう。民俗学者である著者の歩みと日本の近現代史が重なる『民俗学の旅』(講談社学術文庫)も合わせて読みたい。</p>		

★★基礎

書名	現代社会の理論—情報化・消費化社会の現在と未来—		
著者	見田宗介	刊行年	1996
出版社	岩波書店	価格	640円
コメント	<p>つぎつぎとモノが欲しくなり、まだ使えるけれど、新しいモノを買い続ける私たち。つい新製品を試してみたくなる私たち。このような消費社会に生活する私たちひとりひとりが買い物をするという行為が、同じ時間を生きている「南」の国に、あるいは10年、20年先の未来に及ぼす影響について考える手がかりを与えてくれる本。一生出会うことがない遠くの国や、遠い未来の人たちの生活に想像力を働かせ、共感して、行動することができるようになるために、読んで欲しい本。</p>		

★★基礎

書名	自分でできるストレス・マネジメント －活力を引き出す6つのレッスン－		
著者	島津明人・島津美由紀	刊行年	2008
出版社	培風館	価格	1470円
コメント	<p>ストレスは目に見えない。より正確に言えば、現代社会では、目に見えない問題をまとめてストレスと呼んでいるのである。本書では、目に見えない問題を見えるようにして、管理(マネージ)するための方法が書かれている。一般の人向けに書かれた入門書なので、内容が表面的であることは否めない。それでも本書を読むと、心理学が、どのように「こころ」を扱おうとしているのかが端的に分かるだろう。</p>		

★★基礎

書名	「痴呆老人」は何を見ているのか		
著者	大井玄	刊行年	2008
出版社	新潮新書	価格	700円
コメント	<p>認知症について考えることを通して、自分のことを理解する助けになる本。病と健常を区別するのではなく、両者を同じ次元においてみると、多くの新鮮な発見がある。「認知症」「ストレス」「自己」「記憶」「人格」「生きづらさ」「ひきこもり」などの言葉に興味をもつひとには、とくに読んでほしい。これから心理学を学ぼうとするひとにとっては、すこし難しく、すごく参考になる。</p>		

★入門

書名	世界史なんて知らない？		
著者	南塚信吾	刊行年	2007
出版社	岩波書店(岩波ブックレット)	価格	480円
コメント	<p>まだ記憶に新しい「世界史未履修」問題の発覚。みなさん自身は高校の時、世界史の教科書を最初から最後まで勉強しましたか。「なぜ世界史が必修なんだろう？」「日本人なのだから日本史こそ必修にすべきだ」そう考える人もいるかもしれません。本書は世界史が嫌われる原因の分析から始まって、日本に生きる者にとっての世界史を学ぶ意味についてやさしいことばで語っています。世界史の問題は歴史に関心を持つすべての人に考えてほしいと思います。</p>		

★入門

書名	歴史学って何だ？		
著者	小田中直樹	刊行年	2004
出版社	PHP研究所	価格	680円
コメント	<p>「パパ、歴史は何の役に立つの」という子供の素朴な問いかけから始まり、歴史書と歴史小説の違い、「従軍慰安婦論争」の問題点、高校世界史教科書と歴史学など身近なトピックを取り上げて「歴史学とは何か」「歴史学という学問は果たして成立するのか」という難問に切り込んでいきます。分かりやすい語り口で論点が整理されていますので、歴史・文化遺産コースに進むことを考えている人はもちろん、歴史学に少しでも関心のある人に読んでもらいたい好著です。</p>		

★入門

書名	機会不平等		
著者	斎藤貴男	刊行年	2004
出版社	文春文庫	価格	638円
コメント	<p>なぜ人間と社会のことを学ぶか。たんに興味・関心だけでなくこれを踏まえていないと勉強は長続きしない。人間らしい生存の機会を少しずつ削いでいっている最近の日本社会を観察したジャーナリストの書。</p>		

★★基礎

書名	歴史とは何か		
著者	E・H・カー	刊行年	1962
出版社	岩波新書	価格	650円
コメント	<p>「いまだ」と「いきなり」という2つの感慨をもって勧める書。歴史とは「現在と過去との間の尽きることを知らぬ対話」は高尚に聞こえるが、周到的な議論の展開は50年たってもまだ通用する。頻出するヨーロッパ人の名前は場合によっては無視してもよい。「過ぎてしまったものはしょうがない」という観点がやや強い書。しかし、とぼとぼ歩く現在の個々人が歴史の中にあること＝歴史の子であることを説いている。</p>		

★入門

書名	考古学の散歩道		
著者	田中琢・佐原真	刊行年	1993年
出版社	岩波新書	価格	593円
コメント	<p>エッセイのような語り口、しかしそこにあふれ出す教養の泉を見いだすことができるだろう。著者は日本考古学の中核で活躍した巨星二人であるが、この書は、外国人向けに日本の文化と歴史を紹介した英文記事の執筆をきっかけとして企画されたもので、読むために専門知識はほとんど必要ない。現代の様々な事象を過去の事実と結びつける巧みな叙述は、この著者ならではのものである。そこで気づくだろう。著者のメッセージが、過去ではなく、すべて現代社会に向けられていることに。「宝探し」とはちがう本物の考古学を目の当たりにする。</p>		

★★基礎

書名	日本の歴史をよみなおす		
著者	網野善彦	刊行年	初1991、文庫化2005
出版社	ちくま学芸文庫	価格	1260円
コメント	<p>歴史学について、諸君はおもに教科書に書かれた歴史を学んできたはずである。大学に入って学ぶ歴史は、教科書のなかにでてくる歴史のイメージとは、まったく違うもののはずである。教科書があつかっているのは、国家の制度や政治家の人名の歴史である。しかし、人間の社会というものは、役所がきめる法律や政治家だけで成り立っているものではない。地域ごとには人の暮らしというものがあり、それぞれに多様な文化や習慣をもって暮らす日常がある。そういうものに着目して日本史をながめてみると、どんなものが見えてくるのか。本書を読めば、教科書にはない新しい日本史像がでてきて、驚きの連続になるはずである。</p>		

★入門

書名	日本に古代はあったのか		
著者	井上章一	刊行年	2008年
出版社	角川選書	価格	1600円
コメント	<p>日本に古代はなかった。日本の有史は中世からはじまる。飛鳥時代も奈良時代もみな中世だ。ユーラシア大陸の一隅、日本列島だけが、世界の歴史から切り離されて発展を遂げるはずはない。というのが著者の主張。日本列島の歴史を見誤った元凶は、頹廢した古代貴族を倒した「健全な」坂東武者を顕彰したかった明治東京の中世史家たちと、その流れを受け継ぐ学閥だ、と一刀両断にする著者は、「関東嫌いの京都人」らしい。こんな勝手なこと言わせておいていいのか！ 関東人！！</p>		

★★基礎

書名	金印偽造事件		
著者	三浦佑之	刊行年	2006
出版社	幻冬社	価格	720円
コメント	江戸時代に志賀島で発見され、日本史の第一級史料とされてきた「漢委奴国王印」は、実は偽造されたものだった?! 発見当時の記録を丹念に洗い直し、著者が見つけた金印偽造の真犯人とは? 推理小説さながらの展開の中に、歴史の真実を確定する難しさ、楽しさが実感できます!		

★入門

書名	茶の世界史 - 緑茶の文化と紅茶の社会 -		
著者	角山栄	刊行年	1980年
出版社	中公新書	価格	1000円
コメント	植物的には同じ葉っぱなのに、世界的に広まった紅茶文化と、世界に広まり損ねたローカルな日本茶文化の、その運命の違いはどこから来たのでしょうか。ちょっとした文化の差異の背後にある、大いなる世界史の流れをひもときます。		

★入門

書名	昭和天皇・マッカーサー会見		
著者	豊下楢彦	刊行年	2008年
出版社	岩波現代文庫	価格	1000円
コメント	「すべての責任を東条にしよつかぶせるのがよい」という基本路線にたつて、昭和天皇がいかにして自らの戦争責任を免れようとしたかを、緻密な実証で明らかにした書。第二次世界大戦後の各国での占領政策のあり方を相互に検討するのにもよい。少なくとも近現代史とくに20世紀においては一国史だけでは歴史を理解できないことよく示す研究でもある。		

★入門

書名	百姓の力ー江戸時代から見える日本 -		
著者	渡辺尚志	刊行年	2008年
出版社	柏書房	価格	2310円
コメント	日本近世社会の特徴を人口の圧倒的多数を占めた「村」の「百姓」のあり方から論じた一般書です。本書では、村共同体のありかたや、土地を「所有」ということ、小百姓・豪農・村・地域社会などをキーワードに、近世から近代にかけての日本社会の動きを簡潔によく論じていると思います。		

★★基礎

書名	考古学で現代を見る		
著者	田中琢	刊行年	2015年
出版社	岩波現代文庫	価格	1404円
コメント	引退宣言しても、ほどなく復帰するのは、スポーツ選手でも政治家でもよくあるが、現代の日本を代表する考古学者で、埋蔵文化財保護のトップとして活躍した著者の田中琢氏は、文化庁を退職するとほどなく、すっかり引退してしまった。尊敬する考古学者V・G・チャイルドがそうであったように、真に誠実に仕事ができるのは、65歳あたりまでと思うところがあったようだ。そんな著者の現役時代のエッセイ集成には、軽妙な文章の行間に、その時々を精一杯悩み抜いて駆け抜けた考古学者の生き様と、魂のこもったメッセージがある。		

★入門

書名	コーヒー危機 - 作られる貧困 -		
著者	オックス ファム・イ ンターナ ショナル	刊行年	2003年
出版社	筑摩書房	価格	1050円
コメント	ちょっとスタバでコーヒーを飲みながら待ち合わせを…。あなたはその一杯のコーヒーの味が、実はどんどんマズくなって行っているのを知っていますか？ また、その一杯が、生産者を貧困に追いやっているのを知っていますか？ 1990年代以降グローバリズムが生み出す新たな南北問題を告発し議論を呼んだ、話題の一冊です。		

★★基礎

書名	ハーメルンの笛吹き男		
著者	阿部謹也	刊行年	1988年
出版社	ちくま文	価格	756円
コメント	13世紀ドイツの小さな町にふと現れた不思議な男と、その男に連れられて忽然と消えた子供たち。史料をもとに、過去に実際に起こった不可解な事件の全貌と、その事件が伝説化されてゆく過程をつきとめます。そして、その中で明らかになって行く、当時の人々のすがたを描き出します。ドイツ中世社会史の不朽の名作。		

★入門

書名	大学生に語る資本主義の200年		
著者	的場昭弘	刊行年	2015年
出版社	祥伝社新書	価格	886円
コメント	「資本主義」「社会主義」、現代世界を動かしている仕組みというのは、いったいどのように成立したのか。そして、現代世界はどこへ向かおうとしているのか、未来を考えるためには過去を知らなければなりません。近現代の世界史は「資本主義」の歴史でもあります。今こそ「資本主義」とは何なのか、学んでみましょう。		

★入門

書名	ヒンドゥー教とイスラム教		
著者	荒松雄	刊行年	1977
出版社	岩波書店	価格	760円
コメント	世界で9億人が信仰するヒンドゥー教と13億人が信仰するイスラム教。ふたつは多神教と一神教というまったく異なる宗教でありながら、南アジアにおいては長い間共存してきました。未来の国際社会における多文化理解のヒントとも言うべき、南アジアの中世を概観します。		

★入門

書名	翻訳語成立事情		
著者	柳父章	刊行年	1982年
出版社	岩波新書	価格	735円
コメント	「恋愛」や「社会」、「個人」などといった、私たちにはごくあたりまえの日本語は、実は昔からあったわけではありません。幕末から明治初期にかけて人工的に作りだされた、外来語の翻訳なのです。この本は、私たち現在の日本人の言語文化のひとつの起源としての近代という時代を、さまざまな文学や名著とともに描き出した、古典的名著です。		

★入門

書名	世界史で読み解く現代ニュース		
著者	池上彰 増田ユリ	刊行年	2014
出版社	ポプラ新書	価格	780円
コメント	中国と日本の領土問題、中東・ウクライナ情勢、イランの核問題、地球温暖化といった現代の国際問題を、平易な日本語と高校程度の世界史の知識で読み解きます。歴史学の有用性を実感できる一冊。		

★入門

書名	砂糖の世界史		
著者	川北稔	刊行年	1996
出版社	岩波書店	価格	780円
コメント	茶や綿織物とならぶ「世界商品」砂糖。身近なモノを題材に、近現代史をダイナミックに描く名著。		

★★基礎

書名	サンダカン八番娼館		
著者	山崎朋子	刊行年	2008年
出版社	文藝春秋	価格	750円

コメント	戦前、日本からアジア各地に売春婦として送られた「からゆきさん」と呼ばれる女性たちがいました。この本は、のちに聞き取り調査を行い、それまで知られていなかった民衆史の一端を明らかにしたもので、近代日本の「裏」の歴史に迫った女性史研究の古典的名著です。
------	---

★入門

書名	中国学の歩み — 二十世紀のシノロジー —		
著者	山田利明	刊行年	1999年
出版社	大修館書店 あじあブックス	価格	1600円
コメント	それまで専ら文献史料によって進められてきた中国学研究は、20世紀に入るや甲骨文字や敦煌文書等の発見によりアプローチの幅を一気に広げた。その後の中国学の発展を、中国・日本・欧米のそれぞれについて概観する。コンピュータの活用等、これからの展開を睨んだ記述も含む。「高校世界史」から踏み出す「最初的一步」として好適。		

★★基礎

書名	科挙 — 中国の試験地獄 —		
著者	宮崎市定	刊行年	1963年(新書), 2003(文庫)
出版社	中央公論新社	価格	中公新書版714円, 中公文庫BIBLIO版960円
コメント	皆さんも苦勞してぐり抜けてきたはずの受験戦争, 試験地獄のルーツは中国にあった! 本書は中国の試験制度「科挙」の全貌を明らかにする古典的名著ですが, 試験とは一体何か, そもそも人間を試験によって選抜するとはどういうことか, 考えさせられます。冒頭に掲げられた“カンニング下着”写真だけでも一見の価値あり。注意:カンニングは不正行為ですので, 決してまねをしてはいけません(でもこれを作った人は根性あるなあ)。		

★★基礎

書名	宦官 — 側近政治の構造 —		
著者	三田村泰介	刊行年	1963年(新書), 2003(文庫)
出版社	中央公論新社	価格	中公新書版735円, 中公文庫BIBLIO版960円
コメント	男でも女でもない第三の性として皇帝に使えた宦官(かんがん)。本書は日本にはついに導入されなかったこの制度の全貌を伝えるこれまた古典的名著。中国史の裏側をたくさん覗くことができます。制度としては導入されなかったとはいえ、「宦官的」人間は本当に存在しないだろうか。『蒼穹の昴』参考文献。		

★★基礎

書名	チンギス・カン		
著者	白石典之	刊行年	2006
出版社	中央公論新社	価格	760円

コメント	誰もが名前だけは知っている歴史上の超有名人チンギス・カン(「あれ、チンギス・ハーンじゃないの?」「ジンギス・カンとも言うけれど」という人、答えは本書冒頭にあります)。でも、その実像は?本書は「チンギス・カン考古学」を専門に掲げる著者が、現地での発掘成果に基づいて書き下ろした最新の伝記本。「考古学」が文字のない古い時代の専売特許ではないことにも気付かされます。
------	--

★入門

書名	大学生と留学生のための論文ワークブック		
著者	浜田麻里・平尾得子・由井紀久子	刊行年	1997年
出版社	くろしお出版	価格	2500円
コメント	本書は、日本語によるレポート・論文作成に必要なことがらを、基礎から確認・トレーニングしようとするものである。元々は留学生向けに執筆されたものであるが、「母国語だからなんとなく分かっている気になっている」日本人学生にこそ読んで貰いたい。高校までの「作文」から大学での「レポート」「論文」への橋渡しをしてくれるだろう。		

★入門

書名	子どもの難問－哲学者の先生、教えてください！－		
著者	野矢茂樹	刊行年	2013
出版社	中央公論新社	価格	1300円
コメント	<p>本書は哲学者野矢茂樹が第一線の哲学者23名に子どもが考えそうな難問22問をだし、1問2名ずつ答える哲学アンソロジー。問いは「ぼくはいつ大人になるの?」「死んだらどうなるの?」のような子どもが実際に発しそうな問いから始まり、「きれいなものはどうしてきれいな?」や「心ってどこにあるの?」のような野矢が哲学者の力量を試そうとした問いも含んでいる。多くの問いは途中で、読者はふだん「偉そうに難しい書き方をする哲学者」が自分と同じ土俵にきたらどう話すか、楽しみながら味わうことができる。現代日本で読み得る最良の哲学入門の一冊と言ってよいだろう。</p>		

★入門

書名	古典の読み方		
著者	藤井貞和	刊行年	1994
出版社	講談社	価格	1008円
コメント	<p>本書は、日本の古典文学に興味をもち、実際に読んでみようと思う人のために、必要な知識や技術の身につけ方を、分かりやすい言葉で説いた書物である。伝承的なものが日々失はれつつある現代こそ、古典に目をむけるべきだ。物語や和歌を読みこなす方法を身につけるための絶好の入門書である。(実は単なる入門書ではなく、国文学を深く学ぶにつれて、ますます価値が出てくる書物でもある。)</p>		

★入門

書名	近代秀歌		
著者	永田和宏	刊行年	2013
出版社	岩波新書	価格	820円
コメント	<p>歌は文芸の基本である。そして最も長い歴史を有しており、文芸史のような大きな流れのみならず、個人レベルでもそれぞれの来し方と触れあっている。大方の人にとっては国語の教科書で知った歌(=短歌)は長く記憶の中に留まり、折に触れて表に出てくることであろう。本書はこうした記憶をよみがえらせるとともに新たな発見にも導いてくれる。昔「平城山(ならやま)」という歌曲を音楽の時間に習ったが、これはもともと北見志保子の「人恋ふはかなしきものと平城山にもとほりきつつ堪えがたかりき」がもとになっている、などということもわかってくる。ちなみに曲をつけた平井康三郎は周知のように本学の校歌の作曲者でもある。また作詞者である土岐善麿の歌や人となりについても本書で知ることができる。</p>		

★入門

書名	日本仏教史 — 思想史としてのアプローチ —		
著者	末木文美士	刊行年	1992
出版社	新潮文庫	価格	620円
コメント	古代から近世に至る日本仏教の流れを、単な通史としてではなく、その思想的変遷に着目して記述されている。文章も平易で明確。索引もついており、入門書として最適(しかも文庫本なので値段も安い)。		

★入門

書名	中国文章家列伝		
著者	井波律子	刊行年	2000
出版社	岩波新書	価格	735円
コメント	司馬遷が「史記」を書きあげた背景に彼自身の壮絶な生き方があったことは知られていますが、中国の文学者たちの多くは自分自身が時代や歴史の荒波の中でドラマチックな生き方を余儀なくされながら、作品を残しました。ときに悲劇的な人生の中で生み出された作品だからこそ、人を感動させる力に溢れているということもあるのです。同じ著者の「奇人と異才の中国史」(岩波新書、2005年、735円)とあわせて読み、人生と文学、人間の生き方についてぜひ考えてみてください。		

★入門

書名	批評理論入門 — 「フランケンシュタイン」解剖講義 —		
著者	廣野由美子	刊行年	2005
出版社	中公新書	価格	819円
コメント	<p>ものごとは、適切な方法でやらなければうまくゆかないことが多い。文学作品を読む場合も同様で、読み方をわきまえて読まなければ、作品を十分理解することができない。</p> <p>この本は、まず、小説はどのような技法、つまりテクニクを用いて書かれるのかを述べた後で、次に、作品を分析する方法、つまり批評の理論をわかりやすく説明し、技法と理論の両方をふまえた上で、『フランケンシュタイン』という具体的な作品を見事に解釈してみせている。</p> <p>語り口は平易で、楽しく読んでいるうちに、小説とは何かということがおのずと分かるようになっていく。新書で入手しやすいし、とにかく読んでごらんください。おもしろいですよ。</p>		

★入門

書名	哲学の謎		
著者	野矢茂樹	刊行年	1996
出版社	講談社	価格	660円
コメント	時は本当に流れているのだろうか。生物が絶滅しても夕焼けはなお赤いか。他者、意味、行為、自由など哲学の根本問題を巡って、当代きっての語り上手の著者による対話集。		

★入門

書名	フランス恋愛小説論		
著者	工藤庸子	刊行年	1998
出版社	岩波新書	価格	640円
コメント	宮廷を舞台にした、みやびな恋『クレヴの奥方』、手紙が暴露する恋の火遊び『危険な関係』、ごく普通の男を犯罪者に転落させる魔性の女『カルメン』、純情な青年が人妻に恋をして人生を棒に振る『感情教育』、有閑マダムと若いツバメの軽やかな関係『シェリ』。それぞれの時代を代表する名作を簡潔に紹介しながら、フランス文学の伝統「明晰な心理描写」をつまびらかにする、すぐれた入門書です。		

★入門

書名	ライ麦畑でつかまえて		
著者	J.D. サリンジャー	刊行年	1984
出版社	白水社(白水Uブックス 51)	価格	880円
コメント	半世紀を経過しても今なお読み継がれる現代アメリカ文学の代表作。ビートルズのメンバーの一人ジョン・レノンをニューヨークの路上で射殺したチャップマンが胸に忍ばせていた作品としても有名。若者たちの心をとらえて離さない何かがここにある。		

★入門

書名	ジェイン・オースティンと「お嬢さまヒロイン」		
著者	植松みどり	刊行年	2011
出版社	朝日出版社	価格	2800円
コメント	イギリス文学のなかでも特に人気の高い作家オースティンの主要な作品をわかりやすく解説し、読み解く方法を示唆している最新の研究書である。巻末の先行研究紹介も学生には役立つものと思われる。		

★★基礎

書名	「色」と「愛」の比較文化史		
著者	佐伯順子	刊行年	1998
出版社	岩波書店	価格	4410円
コメント	江戸時代の男女の関係の描き方が近代の作家によってどう書き換えられたかを、具体的に面白く解説しています。		

★★基礎

書名	果樹園の蜜蜂		
著者	高橋英夫	刊行年	2005
出版社	岩波書店	価格	2100円
コメント	文芸評論家・リルケ研究家として知られる著者は大学時代ドイツ文学を専攻した。その若き日に入手し、読みふけた書籍を再び書棚から取り出し、それらの本にまつわる思い出とともにその本の果たした役割にも言及していく。「これ以上に匂やかで華やか、見た眼に快い果樹園や花園はほかにいくつもあるだろうが、私はいつの間にか古いドイツ文学という果樹園を、低い羽音を立てて飛びまわる一匹の蜜蜂になっていたのだった。」(本書「あとがき」より)「あとがき」を除き、43編よりなるエッセイ集である。各編4～5頁からなり、どこからでも読んでいける。日本におけるドイツ文学の受容と理解を知るのに好適の本。		

★★基礎

書名	異都憧憬 日本人のパリ		
著者	今橋映子	刊行年	2001
出版社	平凡社(平凡社ライブラリー)	価格	1785円
コメント	日本人がパリに憧れを持って百年以上の歴史が過ぎた。だが、その憧憬のあり方は、明治・大正・昭和の各時代によって異なる。彼らにとって、パリとは何だったのか。この問いは、私たちにとって、パリとは何か、さらには、異国への憧憬とは何かを問う出発点となる。		

★★基礎

書名	不機嫌なメアリー・ポピンズ — イギリス小説と映画から読む「階級」 —		
著者	新井潤美	刊行年	2005
出版社	平凡社新書	価格	798円

コメント	この本はイギリス文学を階級という視点から読み解く手がかりを与えてくれる。類書にない特徴は当地の女学校で学び、しかも転校により背景の異なる教育を受けた著者自身の体験に裏付けられていることだ。近代から現代の新しい作品まで著者の案内で実際に読んでみればイギリス文学の広さと奥行きを知ることができるだろう。
------	---

★★基礎

書名	アメリカの心、日本の心		
著者	亀井俊介	刊行年	1986
出版社	講談社学術文庫	価格	680円
コメント	外国を知ることはその国にかぶれることではなく、日本人であることを意識することでもある。		

★★基礎

書名	批評理論		
著者	丹治愛(編)	刊行年	2003
出版社	講談社選書メチエ 282 知の教科書	価格	1500円
コメント	文学理論の紹介とともに、文学テクストを読むという行為を実践的に紹介しており、卒業論文に取り組む学生には示唆的な書となるはずである。		

★入門

書名	探検! ことばの世界 [新版]		
著者	大津由紀雄	刊行年	2004
出版社	ひつじ書房	価格	1680円
コメント	<p>日常接する、ありふれたことばの不思議な現象を出発点として、人間が話すことばの不思議な世界への探検に誘ってくれる、楽しい入門書です。具体的には、あいまいな文、いわゆる「連濁」の話、ら抜きことば、活用表、代名詞「自分」の不思議な性質などについて、楽しく穏やかな語り口で説明がなされています。「探検隊の隊長」(著者の大津由紀雄氏)といっしょに、ことばの不思議な世界の探検が気軽な気持ちで体験できて、しかも充実味の味わえる本です。</p>		

★入門

書名	ことばと文化		
著者	鈴木孝夫	刊行年	1973
出版社	岩波新書	価格	735円
コメント	<p>言葉は情報伝達の手段であるだけでなく、人間は言葉によって外界を認識するということが、人称代名詞や親族名称などを例にして具体的に説明されています。普段、無意識に使っている母語(日本語)の思いもよらぬ姿が、外国語という鏡に映し出されることによって彷彿としてくるのです。言葉と文化の関心に興味を持つ人にとって、本書は打ってつけの入門書となることでしょう。</p>		

★入門

書名	言語のレシピ — 多様性にひそむ普遍性をもとめて —		
著者	ベイカー, M.C. (郡司隆男訳)	刊行年	2003
出版社	岩波書店	価格	3885円
コメント	<p>見た目はかなり違っても、パンとクラッカーのレシピの違いは大きさ1杯のイーストだけ...。似た所など何一つなさそうな言語どうしも、実はレシピのほんの1カ所が違うだけかもしれない。言語学はこんにち、日本語や英語、アメリカ先住民の言語など、あらゆる言語の多様性の本質に迫りつつあります。言葉に関する新たな発見の興奮が行間から直に伝わってくる...そんな一冊が本書。初学者が予備知識なしで読めるのも魅力です。</p>		

★入門

書名	「わかる」とはどういうことか — 認識の脳科学 —		
著者	山鳥重	刊行年	2002
出版社	ちくま新書	価格	756円
コメント	<p>「わかる」とは、具体的にどのような脳内メカニズムなのかを、脳の高次機能障害の研究をベースに解説しています。特に、「わかる」ための素材となる知覚システムや、「わかる」ための手がかりとなる言語の役割などの解説が、分かりやすいことばで丁寧になされているのが本書の特徴です。皆さんも、この本を読んで「わかる」こととはどういうことなのかを積極的に理解し、ものごとを自発的に理解できるようになりましょう。</p>		

★★基礎

書名	言語を生み出す本能（上）（下）		
著者	ピンカー, S. (棕田直子訳)	刊行年	1995
出版社	NHK出版 (NHKブックス740/741)	価格	各 1344円
コメント	人間が持っている生物学的な資質の一つとしての「ことば」の特徴を、生成文法的視点を元にして解説した本。鑑にくるまれた説明ではなく、生成文法的な言語観を一般読者にも分かりやすく具体的な例も交えながら詳しく説明してあります。今まで持っていた言語観を、チョムスキー流の言語観にさらしてショックを受けて変えるもよし、かたくなに今までの言語観にこだわるもよし、いろいろな刺激を与えてくれる本です。とにかく、自分の言語観を相対化してもらうにはおすすめです。		

★★基礎

書名	言語の脳科学		
著者	酒井邦嘉	刊行年	2002
出版社	中公新書 1647	価格	945円
コメント	チョムスキーが提唱している言語理論の妥当性を、最新の脳科学分野で明らかになった実験結果や脳機能の観察結果を基に詳細に説明しています。人間にのみ備わった言語能力の不思議を探究し、皆さんが日々言語をどのように使用し、また理解しているのか、具体的に考えを巡らせて見ましょう。		

★★基礎

書名	意味論 1, 2		
著者	杉本孝司著 西光義弘編	刊行年	1998
出版社	くろしお出版 (日英語対照による英語学演習シリーズ 5、8)	価格	各 2100円
コメント	意味論の全体の流れを初学者にもわかりやすく解説した導入書で、第1巻は伝統的な意味論、生成文法や論理的形式意味論を扱い、第2巻は認知意味論の諸理論について解説しています。参考文献や練習問題も豊富に取り上げ、なじみやすい構成になっているのが特徴で、意味論や認知言語学に興味を持つ方には基礎文献としておすすめです。		

★★基礎

書名	言葉を復元する		
著者	吉田和彦	刊行年	2005
出版社	三省堂	価格	2400円

コメント	<p>現在残っている書記資料を基にして、語族ごとの祖語の形の再現を目的とする比較言語学、歴史言語学の基礎を解説した本です。全部で5章からなり、比較言語学の方法論のエッセンスが簡潔にまとめられています。言語変化のメカニズムに興味のある人はもちろんのこと、現存していない形を写本や石版の文字から復元することが関係している学問分野に興味のある人に薦めたい本です。19世紀から21世紀までの学問の進展が俯瞰でき、「祖語の再建」(から言語の起源の探究)という作業が古くて新しいテーマであることを認識させられる本です。</p>
------	---

★入門

書名	多言語社会がやってきた		
著者	河原俊明・山本忠行(編)	刊行年	2004
出版社	くろしお出版	価格	2310円
コメント	<p>近年、様々な国から多くの人々が日本に移住するようになり、その結果日本を取り巻く言語環境は急速に変化しつつある。この本では、言語政策に関する様々な問題点を、「日本編」、「世界編」、「理論・一般編」の3つに分け、質問と答え(Q&A)という形式で計107のトピックに分けて簡潔に論じている。</p>		

★入門

書名	My Name is... 世界にひとつだけの名前		
著者	My Name is...プロジェクト編	刊行年	2006
出版社	角川書店	価格	1000円
コメント	<p>世界42か国の子どもの名前の由来、その子どもの生活環境(食べもの、住居、将来の夢など)を紹介。名前をいう身近な話題から異文化を理解させる、新入生に相応しい本です。</p>		

★入門

書名	論理的に書くためのルールブック		
著者	アンソニー・ウェストン	刊行年	2005
出版社	PHP研究所	価格	1100円
コメント	<p>レポートの書き方を判りやすく説明した名著の邦訳版です。</p>		

★入門

書名	問題な日本語		
著者	北原保雄編	刊行年	2004
出版社	大修館書店	価格	800円
コメント	<p>現代の日本語で、“どこか変”“なんかおかしい”と感じる表現を耳にすることはありませんか？その「変」と感じる表現を取り上げて、Q&A式に解明してくれます。読み物としても面白い上、始めから読んでもいいし、自分が気になっている表現から読んでもかまいません。日本語がなんだか気になるという人、日本語を勉強してみたいな、日本語教師になりたいな、などと考えている人に、お薦めです！</p>		

★入門

書名	Culture Bound		
著者	Joyce Merrill Valdes (Editor)	刊行年	1986
出版社	Cambridge University Press	価格	3200円
コメント	Contains various essays regarding intercultural communication with a focus on the interrelationship between language and culture. The essays highlight the importance of being aware of cultural differences when communicating with someone from a different culture.		

★入門

書名	Canada : Pacific to Atlantic		
著者	Josef Hanus	刊行年	2001
出版社	J.H. Fine Art Photo Ltd	価格	\$15.95
コメント	Canada Souvenir Book. Colourful souvenir book of Canada with 80 pages of stunning photographs and text information on important landmarks and areas. Will allow students to 'see' this country first hand and get a feel for its people and places.		

★入門

書名	多文化社会と異文化コミュニケーション		
著者	池田理知子	刊行年	2002
出版社	三修社	価格	2520円
コメント	異なる文化を持つ人たちとのコミュニケーションが日常的に増加しつつある現代、地球規模で物事を考えることがますます重要となっている。この本では、異文化コミュニケーションを多面的に捉え、様々な文化をグローバルな視点で考える。時間・空間に関する認識の違いから異文化コミュニケーションを考え、さらにマスメディアの影響、障害者や高齢者とのコミュニケーション、女性の異文化への適応についても考察している。		

★入門

書名	異文化理解		
著者	青木保	刊行年	2001
出版社	岩波新書	価格	735円

コメント	<p>筆者がタイを始めとして世界各地、日本各地で体験したこと、見聞きしたことなどを もとに、「文化」や「異文化理解」、あるいは文化・異文化に関わる問題などについて わかりやすく語られています。</p>
------	--

★入門

書名	日本語と外国語		
著者	鈴木孝夫	刊行年	1990
出版社	岩波新書	価格	819円
コメント	<p>私たちは「ことば」で外界をどう捉えているのでしょうか？〈同じ〉と思っていたこと が、実は言語によって捉え方、捉える範囲が違うのです。本書前半の「色」や「虹」な どの具体例をとおして、ことばと認識の違いに気づくことができます。また本書後半で は、そもそも外国語だった漢字を日本語が獲得したことによる日本語の変化や、日 本語の中の漢字の知られざる働きに感動できます。</p>		

★入門

書名	人は見た目が9割		
著者	竹内一郎	刊行年	2005
出版社	新潮社	価格	714円
コメント	<p>コミュニケーションの大きな部分を占める非言語コミュニケーションについて考える きっかけを与えてくれる一冊。顔つき、仕草、目つき、匂い、色、温度、距離等々、言 葉以外の膨大な情報が持つ意味について改めて考えさせられる。心理学、社会学 からマンガ、演劇まで多様な視点から日常のコミュニケーションを見直すための「日 本人のための非言語コミュニケーション」入門。</p>		

★入門

書名	世界の英語を歩く		
著者	本名信行	刊行年	2003
出版社	集英社新書	価格	714円
コメント	<p>英語は世界193カ国のうち50カ国で公用語、20カ国で通用語とされている。従っ て国際英語という考え方のもとに国際通用語として使われる一方で、それぞれの国 や地域を反映して多様化した世界諸英語 (World Englishes) という観点から英語を 見直すことが異文化間のより良いコミュニケーションに役立つことを提案している。</p>		

★★基礎

書名	異文化コミュニケーションワークブック		
著者	八代京子ほか	刊行年	2003
出版社	三修社	価格	2800円
コメント	異文化コミュニケーションは国籍が異なるとき、外国人と接するときだけに起こるのではなく、日常生活の中にもあふれている。本書は異文化コミュニケーションが、ますます日常化していく中で、スムーズなコミュニケーションを行うために必要な能力は何かについて分かりやすく説明しています。たくさんのエクササイズがありますから、それらを通して、自らの異文化コミュニケーション能力を試してみるのも楽しいでしょう。		

★★入門

書名	よくわかる異文化コミュニケーション		
著者	池田理知子編	刊行年	2010
出版社	ミネルヴァ書房	価格	2625円
コメント	異文化とメディアに関する総合的入門書としてふさわしい。		

★★基礎

書名	日本と朝鮮 — 比較・交流史入門 —		
著者	原尻英樹他編	刊行年	2011
出版社	明石書店	価格	2730円
コメント	「韓流」を始めとした日本と韓国・朝鮮の文化交流史の基本的留意事項が紹介されて		

★★基礎

書名	クール・ジャパン!?! —外国人が見たニッポン—		
著者	鴻上尚史	刊行年	2015
出版社	講談社	価格	760円
コメント	日本文化が海外からどのように見られているか知ることができる。		

★入門

書名	メディア文化論 改訂版		
著者	吉見俊哉	刊行年	2012
出版社	有斐閣アルマ	価格	1800円
コメント	メディア文化研究についての入門書。新聞、電話、映画、テレビなど様々なメディアについてのこれまでの研究動向が、平易な文章で解説されている。		

★入門

書名	言論の不自由 朝日新聞「みる・きく・はなす」はいま十年の記録		
著者	朝日新聞社会部編	刊行年	1998
出版社	朝日新聞社／径書房	価格	2520円
コメント	現代日本の表現の自由を取り巻く状況をルポしたもの。社会のいろいろな所で言論が封じられていることを告発する著作。		

★入門

書名	ネット大国中国－言論をめぐる攻防		
著者	遠藤誉	刊行年	2010
出版社	岩波新書	価格	798円
コメント	検閲、言論統制のはなはだしい共産主義国家の中国がネットをどのようにコントロールして情報操作を進めているか、それに対し一般市民がどう対抗しているのかの現状が分かりやすく書かれている。		

★入門

書名	(株) 貧困大国アメリカ		
著者	堤美果	刊行年	2008
出版社	岩波新書	価格	798円
コメント	病める大国と言われて久しい米国がいかに格差社会が進行しているのか、限りないまでに救いがたい現状をルポした力作。		

★入門

書名	就活下剋上		
著者	山内大地	刊行年	2014

出版社	幻冬舎	価格	780円
コメント	<p>進学しない、あるいは家業を継ぐなどの例外を除くと、大学生の誰もが通り抜けなければならないのが就職活動である。この「就活下剋上」には、驚くべき、就活での学生の実態が余すところなく記述されている。講義のレポートの課題図書に課すと、読破した学生から、「読んで良かった」「自分の生活をあらためたい」とのコメントが相次ぐ。著書は、よくここまで学生に迫り、ここまで凄い情報をかき集めたものだと思嘆する。学問も大事であるが、学生生活で何に留意しながら4年過ごすべきなのか。その指針となるのがこの本である。騙されたと思って一度読んでみたまえ。絶対に損はしません。</p>		

★入門

書名	痛快！コンピュータ学		
著者	坂村健	刊行年	2002
出版社	集英社文庫	価格	720円
コメント	<p>私たちの生活の中に深く入り込んでいるコンピュータという技術。コンピュータ技術がなければ、実は、コンビニで買い物することもできないのです。本書は、そのようなコンピュータ技術の動作原理や歴史、社会に与える影響などを、非常にわかりやすい文章で解説した入門書です。10年以上前に出た本ですが、面白さとわかりやすさにおいて未だに類書の追従を許しません。</p>		

★入門

書名	デジタルメディア・トレーニング		
著者	富田英典・南田勝也・辻泉編	刊行年	2007
出版社	有斐閣(有斐閣選書)	価格	1900円
コメント	<p>携帯電話・インターネット・デジタル音楽プレーヤー・ビデオゲーム等の「デジタルメディア」の「現在」「過去」「未来」について、社会学的な視点から考察するための「トレーニング」の本。それぞれのメディアについて考えるための基礎的な知識や先行研究が紹介され、さらに章末ごとに「ゼミナール」として簡単な課題が示されている。2007年に発行された本なので、今では過去のものとなってしまったメディア環境を前提としている記述もあるが、この本で身につくであろう視点や考え方は、現在のメディア環境を考える際にも非常に役立つはずである。</p>		

★入門

書名	フラット化する世界〔普及版〕上・中・下		
著者	トーマス・フリードマン	刊行年	2010
出版社	日本経済新聞出版社	価格	各1260円
コメント	<p>いま世界のキーワードとなっているグローバリゼーションの入門書。全世界でベストセラーとなった。デジタル・IT革命で世界は様変わりした。メディアの世界も例外ではない。世界はどう変わりつつあり、どういう方向に進むのか。敏腕ジャーナリストが世界を歩きまとめたルポで、様々な角度から示唆を与えてくれる。これを読めば茨城に住む自分もうかうかしてはおれないという気持ちになるだろう。</p>		

★入門

書名	ヤンキー経済		
著者	原田曜平	刊行年	2014
出版社	幻冬舎(幻冬舎新書)	価格	780円
コメント	<p>地方都市や都市郊外で暮らす若者たちの現状を、おもに消費傾向から調査・分析した本。地方の若者は「残存ヤンキー」と「地元族」からなるとし、この組み合わせを「マイルドヤンキー」と命名した。</p> <p>マイルドヤンキーはタバコと焼酎とEXILEが好き、高級ブランドにあこがれる、車は大きければ大きいほどよい、LINEのタイムラインを使う、上京志向がないなどの数々の分析は、地方出身者が多い茨大生にとって目からウロコが落ちるものばかりであろう。やや厳密さを欠く部分もあるが、調べて、分析して、分かりやすく整理するというプレゼンテーションの基本を学ぶには適した一冊である。</p> <p>若者論に興味のある者は、ほかに阿部真大『地方にこもる若者たち』、藤本耕平『つくし世代』などを薦める。</p>		

★★基礎

書名	テレビの教科書 ビジネス構造から制作現場まで		
著者	碓井広義	刊行年	2003
出版社	PHP研究所	価格	700円
コメント	<p>TVメディアが創り出す情報をいかに読みとるか。視聴率の謎、ドキュメンタリーの検証、デジタル放送など、現場からみた体験的テレビ論。</p>		

★★基礎

書名	証拠改竄（ざん） 特捜検事の犯罪		
著者	朝日新聞取材班	刊行年	2013 (2011)
出版社	朝日新聞出版(朝日文庫)	価格	630円
コメント	<p>大阪地検特捜部の犯罪にどうやってたどり着くことができたのか。その背景にあった、メディアと司直の攻防。息詰まる取材の現場が皮膚感覚で知ることができる。</p>		

★★基礎

書名	アメリカ・メディア・ウォーズ		
著者	大治朋子	刊行年	2013
出版社	講談社	価格	780円

コメント	著者は、足を棒にして、独自にかき集めた情報を基にした調査報道で、優秀な記者であってもなかなか取ることのできない新聞協会賞に2度も輝いた敏腕女性記者。現在は、毎日新聞エルサレム特派員であるが、ワシントン特派員時代に書いた米国メディア事情特集を本の形にまとめたのがこれである。いろんな面で米国は、日本の10年先を行くといわれる。この本が紹介するようにNPOのメディアは興隆するのか。それとも日本型のメディアができるのか。それを考察するに格好の材料となる。端々に見える取材力の凄さ、取材相手へ食い付きには、脱帽する限りである。
------	--

★★基礎

書名	第五の権力		
著者	エリック・シュミット	刊行年	2014
出版社	ダイヤモンド社	価格	1800円
コメント	エリック・シュミットは、言わずと知れたネット企業の覇者グーグルの会長です。グーグルが、今後のネット社会の将来をどう見ているのかが分かる論文です。ネット社会は、これからますます拡大を続け、世界は言論の自由が進み、自由で豊かな社会が到来する起爆剤となるのか。はたまた、イスラム原理主義などの過激派の勢力の強大化が進み、世界は、混迷の度を強め、ネット社会は、厳しさを強めるのか。意外とも思える見方が披露されています。新聞は第4の権力と言われますが、この本のタイトルのように、ネットメディアは、第5の権力になるのでしょうか。一度目を通してください。		

★★基礎

書名	八月十五日の神話 終戦記念日のメディア学		
著者	佐藤卓己	刊行年	2005
出版社	ちくま新書	価格	861円
コメント	「終戦記念日」といえば8月15日である。1945年のこの日、ラジオを通じて天皇の朗読(玉音放送)が流された。しかし、放送後にも空襲はあったし、武装解除や降伏文書調印はまだ終わっていなかった。ではなぜこの日が「終戦記念日」なのか?そこには戦後のジャーナリズムが深くかかわっている。メディア史・メディア論の真髓が味わえる名作。		

★★基礎

書名	アーキテクチャの生態系		
著者	濱野智史	刊行年	2008
出版社	NTT出版	価格	1995円
コメント	Google、ブログ、2ちゃんねる、ニコニコ動画、mixi、Twitter……。インターネット空間にあるこれらの環境設計(アーキテクチャ)はなぜ隆盛を極めたのか。ネット文化論をけん引する論者が平易な文章で解き明かした本。発表から8年を経てもなお、その鋭い分析は色あせておらず、ネット文化について考えるための出発点として本書は有効であり続けている。ただし刊行時と現在のネットをめぐる状況は変化しているので、読んだあとはかならず現在の状況と比較して考えること。		

★★基礎

書名	デザインド・リアリティ		
著者	有元典文, 岡部大介	刊行年	2008
出版社	北樹出版	価格	2310円
コメント	腐女子, コスプレ, スタバ, 焼き肉屋といった場所をフィールドとして, 我々がどうやって世界をデザインし, 世界にデザインされていくかを論じた本. 軽い語り口の中に, 非常にラディカルな思想が埋め込まれている. 「文化っぽい現象」を研究したいと薄ぼんやり考えている学生さんの入門にいいかもね.		

★★基礎

書名	心理学化する社会		
著者	斎藤環	刊行年	2009
出版社	河出文庫	価格	800円
コメント	たとえばトラウマをテーマとした作品テキストがたくさん流通しているが, 伏線や謎の設定として安易に使われすぎている. また一方で, 理解不能な犯罪など(これは現実レベルでも虚構レベルでも人を惹きつけるが)を, 単純に割り切って解釈することもよく見うけられる. こうした問題は, 社会環境の変容との関わりを踏まえてじっくりと考えるべきことからであろう. そうした視点をもつための役にたつのではないかと思う.		

★★基礎

書名	マンガ学入門		
著者	夏目房之介, 竹内オサム他	刊行年	2009
出版社	ミネルヴァ書房	価格	2160円
コメント	「マンガについて学ぶ」とはどういうことか, マンガを学ぶための様々なアプローチをマンガ研究者たちが解説している. マンガがどのように研究されてきたのか, たとえば「マンガの歴史」についても異なるマンガ観から研究されてきたことがわかる. マンガ研究とはどのようなものか掴むきっかけと, これまでの概要を知ることができるだろう.		